

平成25年度病虫害発生予察予報第11号(2月)

平成26年2月4日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量
抑制・促成キュウリ	べと病	並
	褐斑病	並
	うどんこ病	<u>やや多</u>
	つる枯病	並
	黄化えそ病	<u>やや多</u>
	ミナミキイロアザミウマ	<u>やや多</u>
	タバココナジラミ	並
促成ナス	灰色かび病	<u>多</u>
	黒枯病	<u>やや多</u>
	すすかび病	並～ <u>やや多</u>
	うどんこ病	<u>多</u>
	ミナミキイロアザミウマ	少
	ヒラズハナアザミウマ	少
	タバココナジラミ	<u>やや多</u>
	ハモグリバエ類	少
促成ピーマン・シントウ	黒枯病	少
	うどんこ病	<u>やや多</u>
	斑点病	<u>やや多</u>
	アブラムシ類	並
	ミナミキイロアザミウマ	並
	ヒラズハナアザミウマ	並
	タバココナジラミ	並
	ハダニ類	並
促成トマト	灰色かび病	並
	葉かび病	少
	すすかび病	並
	黄化葉巻病	<u>やや多</u>
	タバココナジラミ	<u>やや多</u>

I 気象予報(高松地方気象台 平成26年1月31日発表)

＜特に注意を要する事項＞

期間の前半は、気温の変動が大きい見込みです。2週目は気温がかなり低くなる可能性があります。

＜予想される向こう1か月の天候＞ 2月1日から2月28日

天気は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は低い確率60%です。

＜確率＞

(単位:%)

期 間	要 素	予報対象地 域	低 い (少ない)	平 年 並	高 い (多い)
1ヶ月	気 温	四国地方	30	40	30
	降 水 量		30	40	30
	日照時間		30	40	30
1週目	気 温	四国地方	20	40	40
2週目			60		30
3～4週目			30	40	30

＜予報の対象期間＞

1ヶ月 : 2月 1日(土)～3月 3日(土)

1週目 : 2月 1日(土)～2月 7日(金)

2週目 : 2月 8日(土)～2月14日(金)

3～4週目: 2月15日(土)～2月28日(金)

II 病虫害発生予想

1. 抑制・促成キュウリの病虫害

1) 黄化えそ病

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多
根 拠

- (1) 1月下旬の巡回調査では、本病害の発生面積および発病株率ともに平年並の発生ですが、媒介虫であるミナミキイロアザミウマが増加傾向であるため、今後、気温の上昇にともなって、新たな感染が増加すると予想され、増加傾向で推移すると思われる。

対 策

- (1) 発病株は感染源になることから、見つけ次第早めに除去する。
(2) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除については、当該害虫の項を参照。

2) うどんこ病

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多
根 拠

- (1) 現在、県中央部～中西部で発生が多く、発病葉率も高い。
- (2) 向こう1か月の気象予報から晴れの日が多いことが予想され、ハウス内の乾燥に伴って本病害の病勢を助長するすることも予想され、既発ほ場の状況も併せて、今後もやや多発生で推移すると思われる。

対 策

- (1) 比較的高温の乾燥条件で発病するので、適正な温湿度管理に留意する。
- (2) 薬剤によっては耐性菌を生じやすいものもあるので、同一系統の薬剤を連用しない。

3) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多
根 拠

- (1) 現在、県中央部で発生面積が多く、寄生葉率も平年を上回っている。
- (2) 向こう1か月の気象予報から、外からの飛び込みやハウス内での急激な増殖要因は少ないと思われるが、薬剤感受性の低下が懸念されており、現在の発生状況のまま推移すると考えられる。

対 策

- (1) ミナミキイロアザミウマは生長点部を好んで寄生するため見つけにくく、また、薬剤もかかりにくいことから、丁寧な散布を心がける。また、感受性低下を避けるため、同一薬剤や系統が同じ薬剤の連用は避ける。
- (2) 青色粘着資材等の物理的防除も併用し、ハウス内での密度低減に努める。
- (3) 本虫は黄化えそ病のウイルスを媒介する。発病株は次への発病の感染源となることから、見つけ次第早めに除去する。

2. 促成ナスの病害虫

1) 灰色かび病

予 想 発生時期:並 / 発生量:多
根 拠

- (1) 現在、県中央部の無加温栽培で発生が多い。
- (2) 向こう1ヶ月予報では、気温、降水量とも平年並か少ない、日照時間は多いと見込まれることから、今後急激に増加することは少ないと思われるが、現状の発生から平年より多発生で推移すると思われる。

対 策

- (1) 20℃内外の温度と多湿条件が発病に適し、急激に蔓延するので、予防及び発生初期の薬剤散布を徹底する。ただし、同一薬剤や同じタイプの薬剤の連用は耐性菌発現の恐れがあるので、薬剤の選定には十分留意するとともに、できるだけ過湿状態にならないよう少量の薬液での散布を心がける。
- (2) 薬剤散布のみならず、曇雨天時の加温や送風等耕種的な対策も取り入れ、ハウス内湿度の低減に努める。

2) 黒枯病

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多
根 拠

- (1) 現在、県東部で発生面積および発病度が平年に比べて多発生である。
- (2) 向こう1か月の気象予報では、気温は低めで推移し、晴れの日が多いと予想されるが、既発ほ場が多いことから、平年よりやや多発生で推移すると思われる。

対 策

- (1) 蔓延する前の初期から防除を徹底し、耐性菌発現を防ぐため同じ薬剤の連用は避ける。

- (2) 多湿や急激な温湿度管理、極端な肥培管理は草勢を低下させ、病勢進展を助長するので、適正な栽培管理に努める。

3) すすかび病

予 想 発生時期:並 / 発生量:並～やや多
根 拠

- (1) 現在、全般的に発生面積が平年並の発生である。
(2) 向こう1ヶ月予報は病勢の進展に有利な条件ではないことから、大きな増加はなく現状の発生で推移すると思われるが、例年2月下旬頃から気温の上昇と曇雨天によって、発生が増加することも予想される。

対 策

- (1) 25℃内外の温度と多湿条件が発病に適し、油断すると急激に蔓延するので、予防及び発生初期の薬剤散布を徹底する。ただし、同一薬剤や同じタイプの薬剤の連用は耐性菌発現の恐れがあるので、薬剤の選定には十分留意するとともに、できるだけ過湿状態にならないよう少量の薬液での散布を心がける。
(2) 薬剤散布のみならず、曇雨天時の加温や送風等耕種的な対策も取り入れ、ハウス内湿度の低減に努める。

4) うどんこ病

予 想 発生時期:並 / 発生量:多
根 拠

- (1) 県東部と西部で平年に比べて発生が多く、発病度も平年に比べて高く、向こう1か月の気象予報では気温が低めで推移し、晴れの日が多いと見込まれることから、発生を助長する要素も多いことから、今後も増加傾向で推移すると思われる。

対 策

- (1) 蔓延する前の初期から防除を徹底する。また、耐性菌発現を防ぐため同じ薬剤の連用は避ける。
(2) 急激な温湿度管理や極端な肥培管理は草勢を低下させ、病勢進展を助長させるので避ける。

5) タバココナジラミ

予 想 発生時期:並 / 発生量:並
根 拠

- (1) 現在、県東部～中央部で発生面積が、平年並の発生である。
(2) 向こう1か月の気象予報で、温度の低い時期でもあり急激な増加は考えられないものの、現状の発生が多いことから、この状態で推移すると思われる。

対 策

- (1) 感受性低下回避のため系統の同じ薬剤の連用は避け、発生初期から薬剤防除を行う。
(2) 黄色粘着資材等物理的防除も併用し、ハウス内での密度低減に努める。

3. 促成ピーマン・シントウの病害虫

1) 斑点病

予 想 発生時期:並 / 発生量:やや多
根 拠

- (1) 現在、県中央部で平年に比べて多発生である。
(2) 向こう1か月の気象予報では病勢を助長する要因は少ないが、天敵導入により薬剤防除回数も減少していることから、やや発生は増加傾向で推移すると思われる。

対 策

- (1) 多湿条件が多発の要因となることから、換気を十分に行い、適正な温湿度管理に留意する。

- (2) 蔓延すると防除が困難になるので、感染源となる罹病部位はできるだけ場外へ出し、定期的な薬剤散布を心がける。

2) うどんこ病

予 想 発生時期: 並 / 発生量: やや多
根 拠

- (1) 現在、発生面積は県中央部～中西部でやや多発生で、両地域では発病度も高い。
(2) 向こう1か月の気象予報から病勢を助長する要因が多く、さらに天敵防除の普及で予防散布が十分にできていないところも多いことから、発生は増加傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 本病が蔓延すると防除が困難になるので予防に努め、薬剤散布の際は下葉や葉裏へかけ残しないよう丁寧に行う。なお、天敵を利用した栽培では、薬剤散布が天敵に影響を及ぼす場合があるので注意する。
(2) 急激な温湿度管理や極端な肥培管理は草勢を低下させ、病勢進展を助長させるので避ける。

3) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期: やや早 / 発生量: やや多
根 拠

- (3) 現在、県全域で平年並～やや多発生である。また、寄生葉率は少～平年並である。
(4) 向こう1か月の気象予報から、現在の発生状況が大きく変動することはないと思われるが、天敵の定着が不十分のハウスでは、今後気温の上昇に伴って、当虫の密度上昇が予想される。

対 策

- (1) 蔓延すると防除が困難になるので、天敵昆虫の定着密度や当虫の寄生密度に注意しながら、適切な対応をする。薬剤散布を行う場合、感受性低下回避のため系統の同じ薬剤の連用は避け、増加する前に薬剤防除を行う。

4. 促成トマトの病害虫

1) トマト黄化葉巻病 (TYLCV)、タバココナジラミ

予 想 発生時期: 並 / 発生量: やや多
根 拠

- (1) 現在、黄化葉巻病の発生はやや多発生で、媒介虫であるタバココナジラミも平年より多発生である。
(2) 向こう1か月の気象予報から媒介虫の急激な増加は少ないと思われるが、現在の発生状況から今後気温の増加にともなって、本病害、媒介虫ともに増加傾向で推移すると思われる。

対 策

- (1) 発病株は感染源になることから、見つけ次第除去し適正に処理する。
(2) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。薬剤散布に当たっては感受性低下を生じないように同一薬剤の連用は避け、感受性低下の恐れのない気門封鎖型の薬剤も使用する。
(3) 防虫ネットや粘着資材の設置など物理的な方法も活用し、タバココナジラミの侵入及び密度の低減に努める。

県民の皆様に提供する農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

1. 病虫害防除所ホームページ（こうち農業ネット）：<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ②病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③病虫害発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病虫害 etc.

2. こうち農業ネットサービス※※当方で提供する情報の閲覧は無料です（通信料は別途必要となります）。

・携帯電話を使った病虫害関連情報（どなたでも利用可能です）

- <http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/> (Iモード)
- トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(ezweb)
- 四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(ヤフー)

- ①病虫害発生予察情報（概要）